

駆け出し  
ベンチャー  
キャピタリスト  
奮闘日記

【第7回】  
エニーズの  
クリスマスパーティ  
山本亮二郎

○月○日6社目の投資決定となった(株)エニーズのクリスマスパーティ。同社は、こだわり、オーダー、限定品をキーワードに、メンズスーツを販売する大阪の会社。それだけではよくある職域販売の手法と大差がないが、エニーズでは「キャリリスト」(キャラクターとスタイリストの造語)と呼ばれる新しい職業を創出し、服飾、採寸、カラーについては勿論、接客サービスについてもよく教育・研修を積んだ女性達が、様々なビジネスシーンに応じたコーディネートまで請負うというコンセプトが斬新だ。お酒落の相談相手といったところだろうか。

女性にとっての職業というものを真剣に考えているところがいい。社長の川崎さんはニューヨークが好きな30代の女性で、私の投資先としては(FVC全体でみても)2人目の女性社長になる。

販売手法でもう一つ新しいのは、「ステーション」という考え方だ。これは単に代理店であるだけでなく、エニーズのコンセプトに合致した魅力的な商品を持っていることが条件になっている。これをエニーズのネットワークやブランディングのノウハウで、新たに「商品化」して売り出そうという発想がおもしろい。

最低200の既存顧客を有するステーションを、まずは30箇所開拓し、スーツ、シャツに留まらずネク

タイ、靴、鞆と品数もどんどん増えていく予定で、ステーションは商品開発の拠点であり、販路でもあるという訳だ。

この日のクリスマスパーティは、エニーズのスーツを身にまとった若い男女を中心に多くが集まり、生演奏もあってとても華やかだった。会場は倉庫を改装して最近オープンした、雰囲気の良い南船場のレストラン。ここを運営するO社にも近く投資する予定になっている。

投資決定をした直後ということもあり、川崎社長をはじめキャリリストの方々が入れ替わり言葉をかけてくれる。睡魔不足の体にアルコールの回りは早く、この日は多少自虐的な気分になっていたのかも知れない。けれども、それとは別に、何か場違いな、これでいいのかという迷いが、時々生じる。ベンチャーキャピタルという仕事は麻薬のようなところがあり、肉体労働が長く、ついこの間まで飛び込み営業をしていた者には、「少し頭が高いぞ」という声が聞こえるようではない。

川崎社長はもちろん、エニーズやO社と関係の深い(株)サンワール下の古田社長などは、普通であれば私のような者が何時も時間をいただける方ではなく、気遣いを頂く度にただただ恐縮するばかりだ。(フューチャーベンチャーキャピタル所属、ryamamoto@fvc.co.jp)